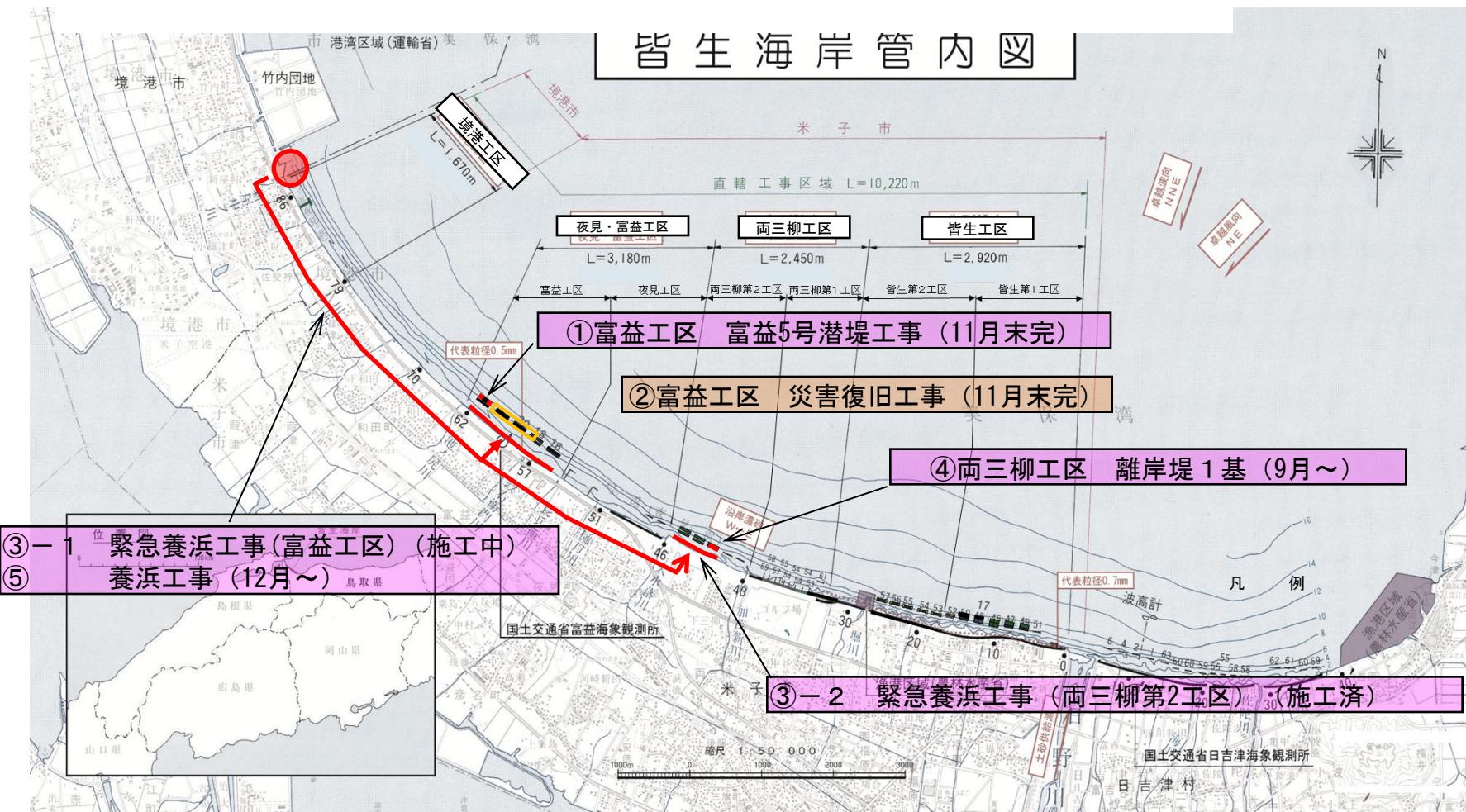


平成26年度 鳥取県西部沿岸土砂管理連絡調整会議
説明資料

平成26年10月29日

国土交通省 日野川河川事務所

海岸保全事業の進捗状況について



海岸保全事業の進捗状況について

主要な工種	単位	全体	完了	残
沖合施設	基	23	20	3
施設改良	基	5	2	3
突堤	基	42	42	0
護岸	m	2,322	2,322	0
緩傾斜護岸	m	720	720	0
サンドリサイクル	式	1	1	1

本年度工事について

- ①富益工区人工リーフ5基目(11月末完成)
- ②富益工区 人工リーフ災害復旧(11月末完成)
- ③緊急養浜工事(11月まで)
 - 1. 境港工区 → 富益工区 18,000 m³
 - 2. 境港工区 → 両三柳工区 20,000 m³
- ④両三柳工区 離岸堤1基(9月～)
- ⑤富益工区養浜工事(12月以降)
 - 境港工区 → 富益工区 10,000m³(予定)

①富益工区人工リーフ5基目(11月末完成)



④両三柳工区 沖合施設 1基目(9月～)

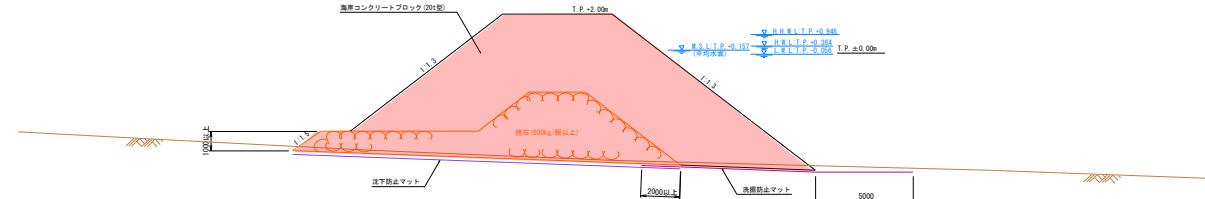
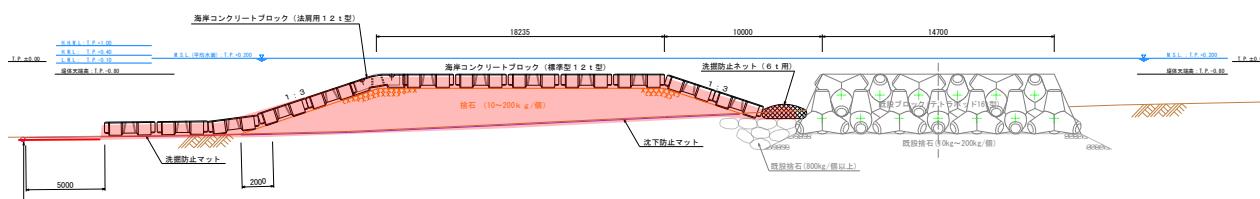


沖側

岸側

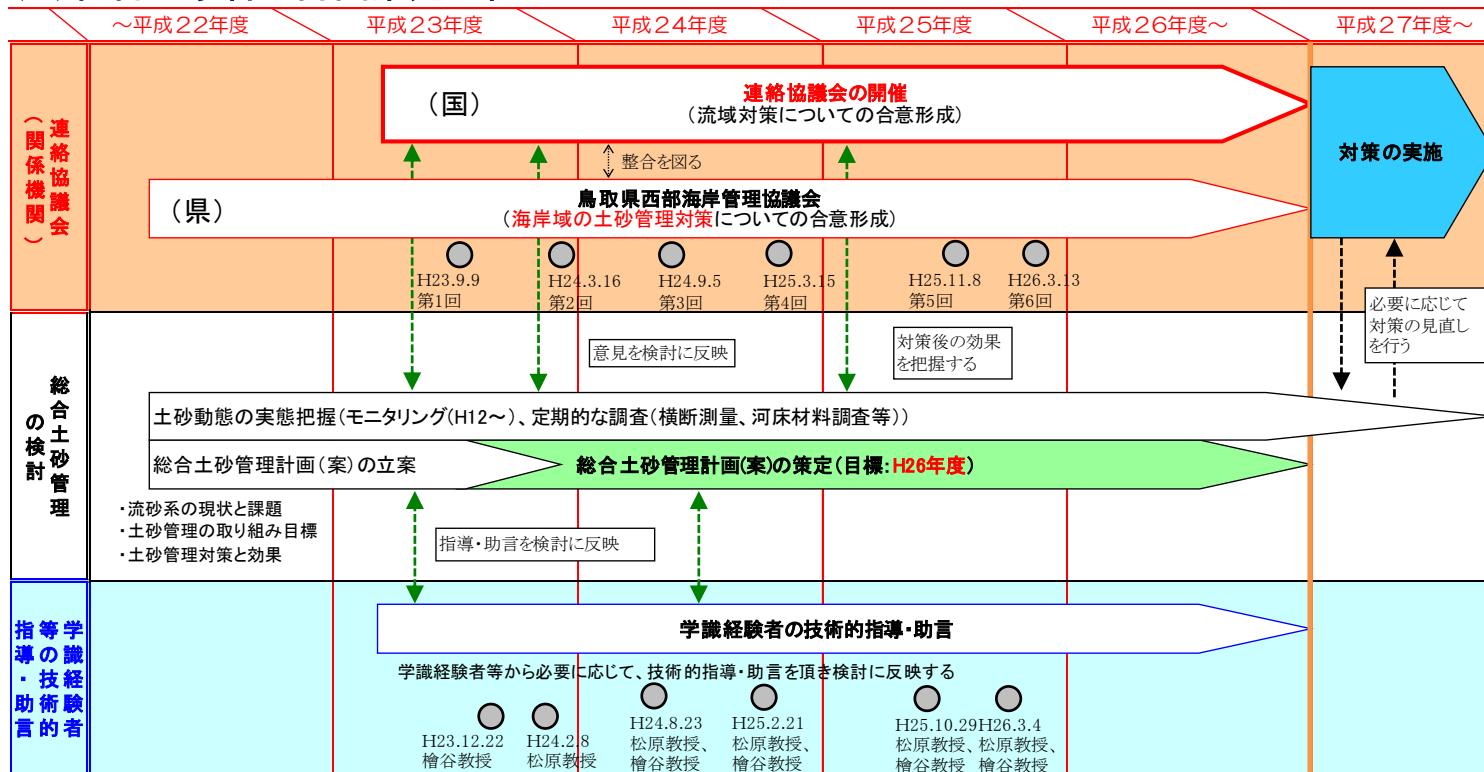
岸側

沖側



日野川流砂系における総合土砂管理計画策定に向けて

(1) 総合土砂管理計画策定工程

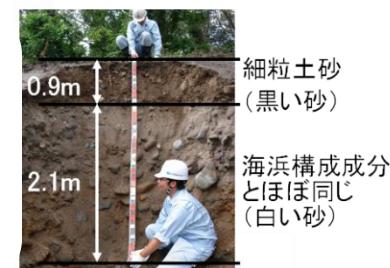


学識経験者	所属	役職	氏名
鳥取大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	教授	松原 雄平	
鳥取大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	教授	檜谷 治	

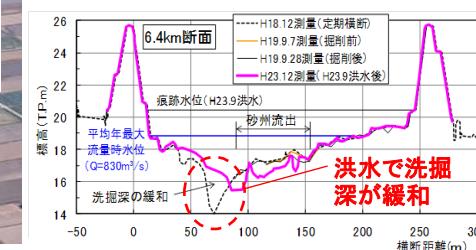
(2) 総合土砂管理対策案の一例(河道掘削)

- 樹林化した砂州の一部を掘削(攪乱)することで、洪水の自然の営力により、砂州に堆積している土砂を海岸へ供給させる対策
- その効果を明らかにするため、H19年度に日野川6.2k右岸砂州で現地実験を行った。
- 砂州掘削後、H23.9洪水により砂州堆積土砂が流出するとともに、滞筋部の深掘れ解消等の治水上の効果も現れた。

砂州に堆積している土砂



洪水前後の横断形状の変化



総合土砂管理計画(案)

海岸域

- 海岸保全施設の整備 (沖合防護施設、人工リーフ)
- サンドリサイクル、養浜
- 防砂突堤の整備(航路維持)、浚渫



河口域

- 維持掘削+養浜
- 河口砂州の堆積土砂は海浜構成材料よりも粗いため、養浜材料として適している



砂防域

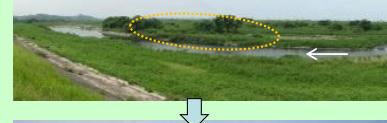
- 透過型砂防堰堤の整備
 - 既設砂防堰堤のスリット化
 - 維持掘削+置き土
- 透過型砂防堰堤では、土砂堆積により除石が必要となる場合があるが、土砂の有効利用の観点から、除石管理が必要となる前に掘削+置き土策を実施する



河道域

- 河道掘削(河床攪乱、樹木伐採)+置き土
- 樹林化した砂州に堆積している砂を下流に流出させる。
- 日野川6.2k付近の砂州では、砂州の一部を掘削し攪乱が生じやすくなることで、洪水により砂州の堆積土砂が流出した。砂州の一部掘削と置き土を合わせて海岸への土砂を供給させる。河道域においては樹木の維持管理対策となる

H23.8.1 (洪水前)

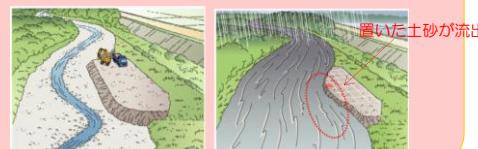


日野川6.2kの現地実験

- 堰の改築(固定堰の可動化など)

ダム域

- 維持浚渫+置き土
- 貯水池の維持浚渫で発生した土砂を下流河道へ置き土する



(3) H25年度の河道掘削実施箇所

- 上記のように、日野川2.0k付近の中州を一部掘削し、洪水による営力による土砂流出に期待する対策を実施(H25年度末)
- 掘削により発生した土砂を有効に利用し、細かい粒径(20cm以下)は流出しやすい河床に置き土、粗い粒径(20cm以上)は洗掘部に投入した。
- 今後はモニタリングを行い効果を確認して行く。



- H26年11月末に第7回総合土砂管理連絡協議会を開催予定
- 総合土砂管理計画(案)の提示、意見交換を実施予定